

ご存知ですか？
東京ルール！

◎ 4月1日より、当院を含む3病院で地域の救急事情改善のため、「東京ルール」をスタートしました。
9月1日より1病院増え、4病院体制で対応しています。

「東京ルール」とは、救急車が現場に到着後、5件以上探しても受け入れ病院が見つからない場合か、調整に20分以上時間がかかった場合に適用されます。この時、「東京ルール」に参画した病院は、まず、受け入れ可能な別な病院を探し、受け入れ先が決まらない場合は、参画病院が一時受け入れをすることになります。

現場には、早くに到着しているのに、まだ、病院の受け入れ先が見つからないから出発できないよ…



どこも患者さんを受け入れてくれないので、東京ルール事案として、地域救急医療センターである、公立昭和病院に患者さんの受け入れを依頼しよう。

1 東京ルールについて、詳しく教えてください。

今までは、救急隊が現場に到着して患者さんを救急車に収容しても、搬送すべき病院のベッドが満床であったり、専門医が不在などで、結果として救急車が現場に長時間留まるケースがありました。重症者については、ホットラインなどを通じて、当院など重症者を受け入れる3次救急病院に運ばれますので、この様なケースは発生しませんが、中等症以下の患者さんに対しては、この様な事態が発生することがありました。

そこで、東京都では「東京ルール」を設け、**救急隊が5件以上病院を探るか、20分以上受け入れ先が見つからなかった場合**、「東京ルール」に参画している病院（地域救急医療センター）が、基本的に患者さんを受け入れ、対応することになりました。参画対象は2次救急病院ということでしたが、この圏域では、一人当直医で努力してきた病院が多く、受け入れ体制を確保するための人件費、人材確保が困難であったりすることから、簡単に参画を表明できる病院は多くありませんでした。そこで、公立昭和病院が、地域の中核病院として、圏域内に参画を呼び掛けつつ、自らも東京ルールに参画し、地域救急の向上に努めることになりました。

4月より3病院でスタートしましたが、9月現在1病院増え、4病院（当番制）により施行しています。今後とも2次救急病院の参画を求めて努力していききたいと思います。

2 東京ルールになる患者さんはどのような方ですか？

タイミングの問題によっては、誰でも該当してしまいます。

当院でもありますが、すでに救急車を同時に何台も受けており、これ以上の受入れが無理な場合は、救急の受入れをやむを得ず断ることもあります。また、病院の規模によっては、専門医がいない場合や、手術中で対応が不可能な場合もあります。

また、暴れてしまう患者さん、大声を出す患者さんについては、スタッフの少ない病院では対応できない場合もあるかもしれません。精神疾患をお持ちの患者さんも、救急病院の医師では対応できない場合があり、精神科医との協力体制を構築することが急務になっています。

3 東京ルールがスタートする前に、先生方が白熱した会議を行いました。

実は、精神科の医師と一般診療科の医師が、相互の話し合いをすることは、これまで、ほとんどありませんでした。このことが、互いの立場を理解できず、現場での問題に発展することがありました。

例えば、夜間に精神疾患のある患者さんが、頭のケガで当院の救急外来に受診した場合、ケガの治療は済んだものの精神的に不安定で、このまま帰しても良いのか、判断に困ることがあります。

しかし、精神科の病院に問い合わせても、夜間は連絡がつきにくく、問題になることがあります。また、その逆で、精神科の病院で容態が急変しても、かかりつけの病院が、治療を受けてくれず、身体の治療に関して慣れていない精神科の医師が、途方に暮れることもありました。

そこで、東京ルールを始めるにあたり、この問題について、相互の医師に話し合ってもらいました。

初めての交流会（東京都の担当者によれば、あまり例のない画期的な会議とのこと）でしたが、医師同士の情報が共有化されれば、意外に協力的な話になり、結果的には、それぞれの悩みが理解でき、現場で困らないための、簡単なルールなども構築できました。

地域で東京ルールを始動することで、少しずつですが、地域の救急事情が改善されてきております。

公立昭和病院は、これからも、地域医療の改善に向け、地域の先生方とともに努力してまいります。😊



白熱した話し合いが、何度も行われました。

